

# 就職情報通信

第77号

2018年10月1日

静岡大学

全学キャリアサポート委員会

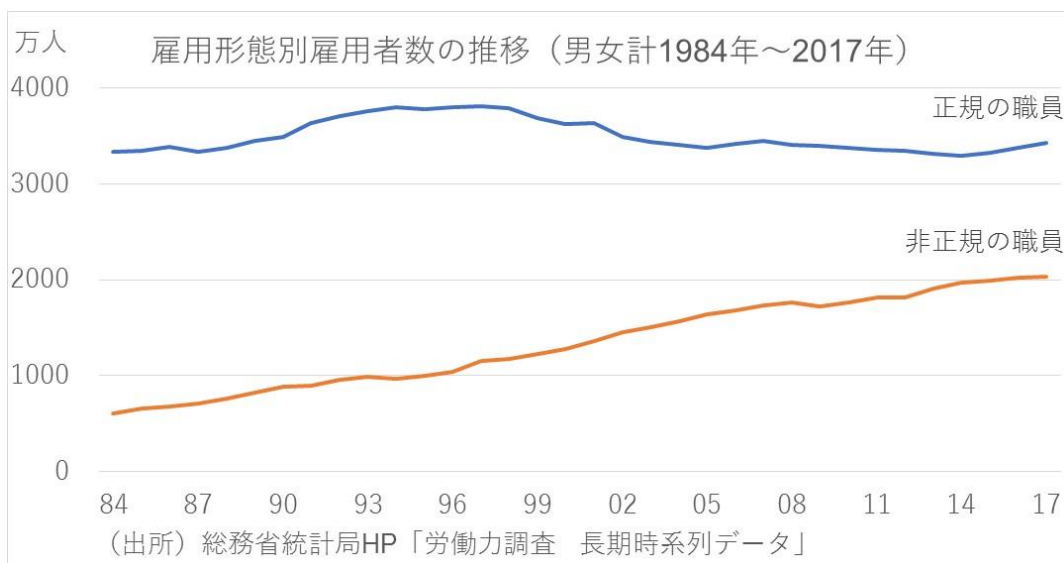
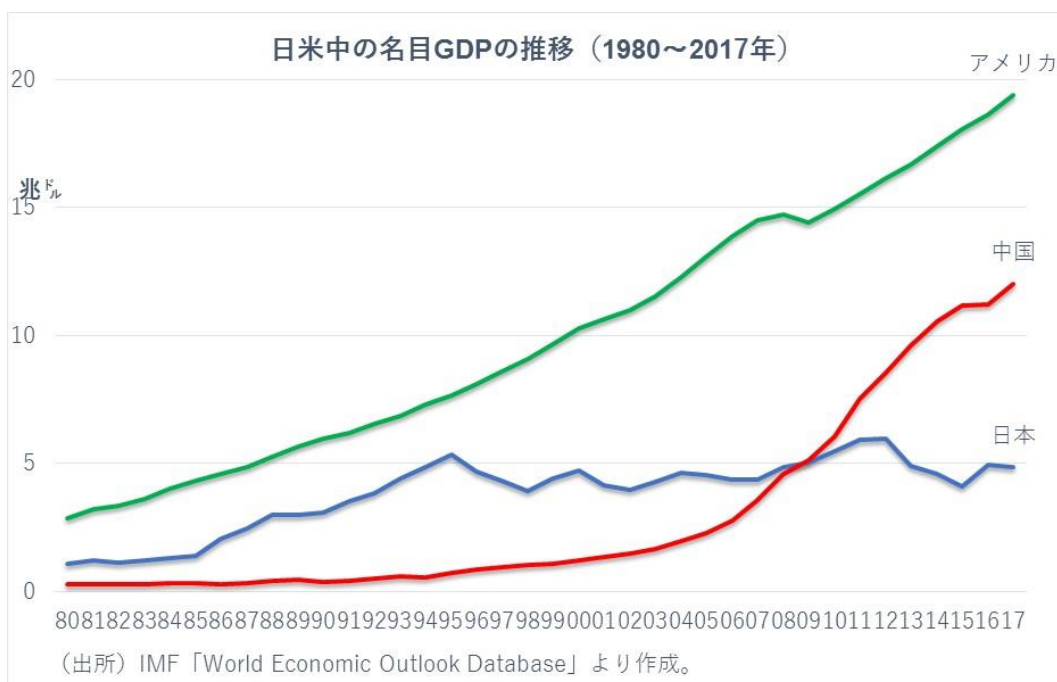
固定概念から脱却して、新しい目で見ると

人文社会科学部

教授・朴 根好

大卒者の就職率は、2018年4月1日時点で98%を記録し、1997年の調査以来の過去最高を更新した。しかし、過去最高といわれても、素直に喜べない。というのは、まず経済の活況というより、20代労働人口の減少によるところが大きいと思われるからである。20代の人口は、2番目のピークを迎えた1996年に約1900万人だったものが、2017年には約1250万人に減少した。全人口に占める若者人口の割合を見ても、1996年の18%から2017年には11%へと減少しており、若者人口の減少が急速に起こっていることが分かる。

しかし、日本経済は、いわゆる「失われた10年」がもはや「失われた30年」と呼ばれるようになりつつある。この点、グラフ（次項上）に示されたとおり、アメリカと中国とは対照的な動きを示している。アメリカの持続的な成長と中国の飛躍的な成長と比べると、日本経済の長期低迷は目を覆いたくなるものである。いうまでもなく、雇用情勢は経済動向に大きく左右される。経済低迷の長期化により、正規雇用者は減少する反面、非正規雇用者が増加するなど、雇用の不安定化が進展しつつあるのである。たとえば、雇用者数は1996年の4843万人から2017年の5460万人まで617万人増えているが、内訳をみると、正規雇用は368万人減少、非正規雇用は993万人増加している（グラフ（次項下）参照）。この間、非正規雇用比率は1996年の21.5%から2017年の37.3%に増加している。そして、給与所得者数の平均給与はピークを迎えた1998年に418万円だったものが、2016年には356万円に減少するなど、雇用者の所得水準は著しく低下している。こうした雇用の不安定化と雇用者所得水準の低下が、消費マインドの改善に及ばずし、個人消費低迷の長期化の一因をなしているのである。



重要なことは、固定概念から脱却して、新しい目で見ることであろう。固定観念にとらわれ、データも見ず、間違った情報を鵜呑みにする傾向が強いからである。固定概念が強すぎると、客観的に見る事が出来なくなり、正確な判断においても支障をきたすことはいうまでもない。

◎就職支援専用サイトでは、イベント、求人、就職相談、ガイダンス等様々な就職情報を発信しています。

<http://www.career.ipc.shizuoka.ac.jp>